



報道関係者各位

## ギブン・イメージング社、オーストラリアで メディケアから PillCam® SB の永続的な財政支援資格を取得

### PillCam® カプセル内視鏡の大規模な臨床データによって財政支援が適用

イスラエル ヨクナム、2008年5月15日：ギブン・イメージング社 (NASDAQ: GIVN)は本日、オーストラリア政府のヘルス・アンド・エイジング部により、PillCam® SB (ピルカム エスビー：小腸用)カプセル内視鏡へのメディケアによる永続的な財政支援が承認されたことを発表しました。カプセル内視鏡は、データ収集を条件に、2004年5月より暫定的にメディケアの財政支援が行われていました。メディケアは、すべてのオーストラリア住民に健康管理の補助金を提供する制度です。

オーストラリアの PillCam® SB カプセル内視鏡のデータベースは、ギブン・イメージング社との協働によりオーストラリア消化器病学会 (GESA) のメンバーによって開発・蓄積された 2,949 人の患者さんのデータベースです。このデータは PillCam® SB に関して集積された中で最大のデータベースで、これまで MSAC (医療諮問委員会) に提出された中でも最大のデータベースです。MSAC は新たな医療および技術について安全性、有効性、さらにコスト効率について、オーストラリアのヘルス・アンド・エイジング担当大臣に答申を行う委員会です。

この件について、ギブン・イメージング社のホミ・シャミール社長兼最高経営責任者は次のように述べています。「オーストラリアで PillCam® SB が永続的なメディケアの財政支援を得られることになったことは大変喜ばしいことで、ギブン・イメージング社の重要なマイルストーンです。特に重要なのは、当社と消化器医師団体およびオーストラリア当局が成功裏に協力して、PillCam® の安全性、有効性それにコスト効率を実証した臨床上の証拠に基づいてその決断がなされたということです。私たちはこのプロセスでリーダーシップと取っていただいたオーストラリア消化器病学会に感謝の意を表明するとともに、先々 PillCam® SB の追加適応症への保険償還を得るために協働させていただくことを楽しみにしています」

データベースから得られた主要な知見は以下のとおりです。

1. 消化管病変は患者さん(データベース)の 71.1%で発見(臨床試験に基づいた MSAC 評価報告#1057 の推定では 59.9%とされていた)
2. 医療費削減額について、PillCam® SB カプセル内視鏡検査から 12 ヶ月間において、大腸内視鏡検査、小腸内視鏡検査、小腸造影など他の検査方法と比較して、患者 1 人当たりの推定経費削減額は 2,667 オーストラリアドル
3. 入院費の削減に基づく経費削減は、PillCam® 内視鏡による検査前は 1 年間で入院費が医療費の 44.6%を占めていたのに対し、PillCam® 内視鏡による検査後は 11.6%に削減

ギブン・イメージング社は、消化器内科医と協力してデータベースの解析を継続し、学会に論文を提出し発表を行う予定です。

## ギブン・イメージング社について

ギブン・イメージング社は、消化器疾患を発見するための、革新的で患者様に優しい製品を開発、製造、販売することで、消化器の診断に新たな視野をもたらしています。ギブン・イメージング社のテクノロジープラットフォームは、PillCam<sup>®</sup> プラットフォームに代表され、カプセルの中に小さなカメラを装着し、患者様が嚥下する使い捨ての PillCam<sup>®</sup> カプセル内視鏡と、データレコーダ、RAPID<sup>®</sup> ソフトウェアからなります。ギブン・イメージング社は、多くのカプセル型内視鏡を販売しています。アメリカをはじめ 60 カ国以上で発売されている、小腸全体を検査することができる PillCam<sup>®</sup> SB カプセル内視鏡、食道を直接観察できる PillCam<sup>®</sup> ESO カプセル内視鏡、PillCam<sup>®</sup> カプセル内視鏡が消化管を通過できるかどうか開通性をみるための Agile<sup>™</sup> 通過確認用カプセル、すでに欧州では販売されている、大腸を直接観察できる PillCam<sup>®</sup> COLON カプセル内視鏡などがあります。PillCam<sup>®</sup> COLON は、欧州では CE マークを取得しましたが、アメリカではまだ販売にいたっておりません。世界でこれまで 70 万人以上の患者様が PillCam<sup>®</sup> カプセル内視鏡検査のベネフィットを受けました。ギブン・イメージング社の本社、工場、研究開発施設は、イスラエルのヨクナムにあり、アメリカ、ドイツ、フランス、日本、オーストラリア、シンガポールに子会社があります。ギブン・イメージング社の大株主としては、Elron Electronic Industries (NASDAQ & TASE: ELRN)があります。さらに情報が知りたい方はこちらをご覧ください。http://www.givenimaging.com.

注) 日本では、PillCam<sup>®</sup> SB カプセル内視鏡(小腸用)のみ、承認、販売されています。

本件に関するお問合せ:

バーソン・マーステラ社(ギブン・イメージング株式会社広報代理店)

平田・福島 電話 03-3264-6713

このプレスリリースは、米国の 1995 年民間有価証券訴訟改革法の免責条項内での前向きな声明を含んでいます。前向きな声明は、私たちのビジネス、将来の収益、経費、収益性に関する見通し、またそれらに限らず含まれています。前向きな声明は、「可能性がある」「予期する」「見積もる」「期待する」「意図する」「予定する」「確信する」という前向きな単語を伴う場合がありますが、伴わない場合もあります。前向きな声明は、既知および未知のリスクと不確実性および、出来事、結果、業績、状況または企業の達成事項を引き起こす可能性のある他の要因を含みますが、前向きな見通しで述べられた未来の出来事、結果、業績、状況または達成事項は著しく異なることがあります。前向きな声明とは異なる出来事、結果、業績、状況と達成を引き起こす要因としては、下記を含みますが、下記に限りません。

(1) PillCam COLON における十分な治験結果 (2) 規制当局の認可、弊社製品の販売許可、または規制環境の変化に対応できる当社の能力 (3) 当社の販売、マーケティング、生産計画の成功 (4) 特許および他の知的財産権の保護と有効性 (5) 為替レートの影響 (6) 競合他社の影響 (7) オリンパス社との特許訴訟を含む将来の訴訟の結果 (8) 政府および商業的保険者から保険償還を得る当社の能力 (9) 四半期の業績の変動 (10) イスラエルにおける武力衝突または市民または軍による騒乱 (11) 米国証券取引委員会に提出され公開されている他のリスクと要因は、Form 20-F で提出した 2007 年 12 月 31 日に終了した年次報告書に掲載されている Risk Factors (リスク要因)、Cautionary Language Regarding Forward Looking Statements (将来の業績に関する見通しの注意事項)、Operating Results and Financial Review and Prospects (営業成績と財務概況と見込み) の表題で記載されていますが、これらに記載されているリスクと要因に限りません。このプレスリリースに含まれる前向きな声明はプレスリリースの日付時点のものであり、過度に信用を置かないようにしてください。関連する証券取引法に基づき重要情報を公開する義務以外は、企業には前向きな声明の変更や、出来事、予期せぬ出来事の発生を公表する義務はありません。